

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年1月28日

**【昨日の情報1ページ目差し替え】**BMJ:新型コロナワクチン：年1回接種で良いのか？

新型コロナとインフルエンザの両方に感染し入院あるいは死亡した米国の18才未満の人々の臨床的特徴

## 【松崎雑感】

昨日のPPTの1ページ目が雑感なしでした。差し替えをお願いいたします。

インフルエンザに感染して入院した子どもの数%は新型コロナにも感染しているようです。それぞれのワクチン接種が大事だろうという論文です。とりわけ、基礎疾患のある小児では、しっかりと両方のワクチンを受けることがカギだと思います。

## コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年1月27日

BMJ:

新型コロナワクチン：年1回接種で良いのか？

訂正：昨日の1ページ目

### 【松崎雑感】

米国感染症学会会長カルロス・デルリオ氏の発言を主に報道したBMJの記事です。インフルエンザワクチン接種が年一回だから、コロナも年一回にしようという動きがあるようです。しかし、年1回のブースター接種で大丈夫だという科学的エビデンスはありません。最後のワクチン接種からの経過期間が6か月の場合と12か月の場合で重症化率が違うのかを確かめるトライアルが必要です。6か月ごとにコロナワクチンを打つというのは確かに大変で、できれば避けたいと思う人が多いでしょうが、拙速な決定は避けなければならないと思います。

## 新型コロナとインフルエンザの両方に感染し入院あるいは死亡した米国の18才未満の人々の臨床的特徴

Adams K, Tastad KJ, Huang S, et al. Prevalence of SARS-CoV-2 and Influenza Coinfection and Clinical Characteristics Among Children and Adolescents Aged <18 Years Who Were Hospitalized or Died with Influenza - United States, 2021-22 Influenza Season. *MMWR Morb Mortal Wkly Rep.* 2022;71(50):1589-1596. Published 2022 Dec 16. doi:10.15585/mmwr.mm7150a4

今、22～23年のインフルエンザシーズンだが、小児のインフルエンザ入院が増加している。

一方新型コロナも流行中であり、今回のインフルエンザシーズンは、両感染症の初めての同時流行が懸念される。

両疾患とも、小児に大きな健康被害をもたらす。ただし、二つ同時に感染した場合、単独感染と比べて重症化が高まるのかどうかわかっていない。

21～22年のインフルエンザシーズンにおいて、18才未満の人々が新型コロナとインフルエンザに同時感染した場合と、インフルエンザだけに感染した場合の予後と臨床的特徴を比較した。

データはRespiratory Virus Hospitalizations Surveillance Network (RESP-NET)から取得した。

この期間にインフルエンザで入院した18才未満患者の6%（525名中32名）が同時感染しており、インフルエンザによる死亡者の16%（44名中7名）に新型コロナ感染が合併していた。

同時感染していない場合と比較して、同時感染者は、気管内挿管人工呼吸器治療率（4%対13%）と、挿管せずフェイスマスクによる人工呼吸器治療率（6%対16%）が有意に高かった。

同時感染して死亡した7名は全員インフルエンザワクチン未接種で、抗インフルエンザ薬投与は1名だけだった。

インフルエンザ感染児の重症化と死亡を防ぐには、基礎疾患の有無に注意し、新型コロナを含む呼吸器感染症病原体の幅広い検査を行い、適切に抗ウイルス薬を使用することが必要である。

呼吸器感染ウイルス流行時には、適切なマスクの着用、生後6か月以上の小児に対するインフルエンザおよび新型コロナワクチンの適切な接種が必要である。